The Flora of Eastern Himalaya Ⅰ-Ⅱ (1966-71) の編著者及びⅢ (大橋広好博士編 1975) の重要な執筆者となり，British Museum (Natural History) との協力による An Enumeration of the Flowering Plants of Nepal Ⅰ-Ⅲ (1978-82) の主編者に推され，世界に大きい貢献をした。

博士はその一生を極めて有効に用いたように見える。それは広い意味での経済性に基づくものと言える。博士ほど狭い机上の空間を有効に用いた研究者を見出すことは難しい。また，どんなこま切れの時間も，少しの身体的のエネルギーも決して無駄にはしなかった。有効でないものはさっぱりと切り捨てられた。これと生来の暖かさを感じさせる社交性とがないまぜとなって仕事が進められ，大きい集積を形成して行ったのである。結果が多くの賞の対象となったのは自然のなり行きである。

ひつぎの中の博士の面影は小さく見えた。しかしこの稀な人の足跡は大きい影響を残すことであろう。

Dr. Hiroshi Hara, Professor Emeritus of Botany of Tokyo University and Editor-in-chief of this journal since 1975, left us for better fields on 24 September last year. His sudden death was caused by the mascular dystrophy which started at his right foot and spread gradually upwards. Our sole consolation is the fact that he seemed to be unconscious of the seriousness of his case.

He was truely a born botanist and an outstanding plant taxonomist. His contributions to the nomenclature of the Japanese plants are not comparable to any others. For the last three decades of his lifetime, his main botanical interests were in the Himalayan flora in comparison with the Japanese.

(津山　尚　Takasi TUYAMA)

□望月市恵・宮崎市定・桜井和市・原　寛・小原二郎：**来し方の記 8** (信毎選書15) 245 pp. 1984. 信濃毎日新聞社，長野. ￥1000. 1986年9月24日亡くなられた原寛先生は，自らを語ることは全くなさらなかった。本書は信州出身者の銘々録で，先生の唯一の自伝といえるたいへん珍しい文章が145-182頁にみられる。とくに少年時代から学生・米国留学・戦時中の記述は，こういう本がなければ誰も知らないままになってしまったことだろう。初めて正式の外国調査隊としてブータンへ入ったときの裏話もある。最近のことがらは，植物学会百周年のあたりまでが，出来事を追って記されている。先生はこの本のあることを言いふらされたくなかったようなので，どこかで苦笑されながら鼻のわきを掻いておられることだろう。　(金井弘夫)